

岡山県花き消費拡大実行委員会（岡山県）

協議会構成団体：岡山総合花き株式会社、全国農業協同組合連合会岡山県本部、岡山県、岡山市市場事業部、岡山県花卉農業協同組合、岡山花き仲卸協同組合、岡山県花卉商業協同組合、岡山県花木園芸商業協同組合、岡山県三栄生花商業協同組合

対象品目

切り花：りんどう
スイートピー
バラ 等



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- 船穂産スイートピーを対象に、流通効率化に向けた研修会を開催した。流通経路を明らかにし、今後予想される課題を明確化した。
- 専門家から先進事例を学ぶとともに、対象産地の生産者及び流通関係者、行政を交えた意見交換を行った。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- 県産花きの魅力発信を目的に、岡山市場でのイベントで、県産花きを用いたフォトスポットやアレンジメントの展示を実施し、家庭内消費の拡大を行った。
- 親子に向けた花育体験を実施し、講師による説明を充実させることで、花への興味関心、購買意欲をより一層高めた。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- 県オリジナルりんどうの普及を目指し実証ほを設置
- 「岡山RND4号」について、低標高地での生育、切り花品質を調査し、低標高地での栽培推進を検討した。
- 「ピンク中生1号」の栽培面積拡大を目的とし、採穂用親株の培養苗栽培特性の把握と農業研究所が開発した挿し芽技術の現地適応性を検討する実証ほを設置した。

< 取組の成果 >

- 対象産地において物流の確保、運送会社との情報共有が流通上の課題であることが明らかになった。
- 専門家による助言を得ることで、生産量を維持することで物流を確保し、運送会社との情報共有を今まで以上に大切にすることが重要だと産地内の現状認識が深まり、課題解決に向けた契機となった。



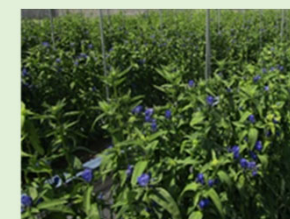
研修会の様子

- イベントの参加者に対するアンケート（回答数25人）では、「今回のイベントに参加して、今後、これまで以上に花を購入したいと思う。」と回答した者は32%であったことから、花育体験及び県産花きの展示は新たな購入層に対する花購入の動機付けとして有効であることが分かった。



親子花育体験の様子

- 「岡山RND4号」は、低標高地で6月中旬に開花し、一般的な栽培地と比較し約半月早く出荷でき有利販売が期待された。また、切り花長、花段数などの品質は極早生として適当であった。しかし、土壌病害による欠株が発生し、防除や遮光などの対策が必要であることがわかった。
- 「ピンク中生1号」は、遮光と十分なかん水を行うことで定植1年目の生育が優れることがわかった。挿し芽は穂冷蔵することで発根が良く草丈が長いことがわかった。採穂時期は4～5月が適することがわかった。



岡山RND4号の
低標高地での開花状況

< 今後の取組予定 >

- 流通の効率化について、令和5年度の検討会により産地や品目等によって課題が異なることが明らかとなったため、令和7年度はりんどうを対象に課題の整理を図る。
- 県オリジナルりんどうの実証では、令和7年度から苗販売を始める「岡山RND6号」の現地適応性の確認に取り組むとともに、希少なピンク系品種である「ピンク中生1号」の生育や切り花の品質について検討する。
- 花きのPRについては、引き続き県産花きの展示、親子に向けた花育事業に取り組み、花への興味関心を高めることで家庭内消費の拡大を図る。

山口県花卉園芸推進協議会（山口県）

協議会構成団体：

山口県花卉園芸農業協同組合、山口県農業協同組合、(株)徳山花市場、
(株)山口県中央花市場、(株)下関合同花市場、花卉商代表、
(一財)やない花のまちづくり振興財団、(一社) JFTD75 花キューピット山口支部、
山口県地域消費者団体連絡協議会、山口県

対象品目

切り花：オリジナル
リンドウ、オリジナル
ユリ、
球根：オリジナル
ユリ



りンドウ西京シリーズ



小輪系ユリプチシリーズ

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・流通の効率化に向け、現在手作業で行っている集荷から出荷までの荷積作業について、パレットやフォークリフトを活用した集荷作業への変更がもたらす効果を検証した。
・併せて、流通段階の低コスト化を図るため、湿式での流通を検討する上で、積載効率の優れたバケットを活用した実証を行った。

- ・湿式（バケツ下に水を溜めた状態）で花を搬入した結果、夏の高温期におけるしおれを防ぐことができ、品質が向上した。四角バケットの積載効率の高さや空間ロスの少なさにより、効率の良い輸送が実証できた。
- ・湿式のバケットには水が入っているため、通常の輸送より重くなる。そのため、フォークリフトを使用してパレットにバケットを設置し、搬入を行い、作業時間の短縮を図った。
- ・湿式のバケットを活用し、積載効率が27%向上することが実証できた。



リンドウ湿式バケット

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・ホームユース需要の高い小輪系ユリへの品目転換を推進するため、市場及び実需者へ需要量等を確認するために意見交換等を実施した。

- ・需要時期に県内の店舗職員向けに、規格などの詳細な需要調査を実施した。調査内容はユリ生産者と共有し、販売計画の参考とした。
- ・関東圏の花店舗職員に小輪系ユリの説明会を開催し、小輪系ユリはアレンジ向きで、においが少ないので場所を選ばず飾れることをPRした。関連店舗でユリのフェアに取り組むことになった。



説明会の様子

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・高品質な切り花を安定的に栽培するため、高温対策技術の実証を行った。ミスト散布（細霧冷房、ミスト散水による気化熱を利用）による温度低下の確認を行った。
・遮光を兼ねた防虫資材の導入による、切り花品質の低下防止効果を確認した。

- ・切り花のミスト散水の実証では、ハウス内温度は10月時点でミスト設置区は温度が5℃低下した。葉焼け症状はミスト設置区でも発生し、設定方法には改良が必要と考えられる。
- ・球根増殖では遮光資材の被覆とミスト散水により、遮光無しのハウス気温が50℃になる日に実証ハウスは35℃前後を維持できた。
- ・ネットの設置により高温障害を回避できた。生育調査の結果、ネット設置はリンドウの生育(草丈、花段数)に大きな影響はなく、日持ち調査ではネットを設置することで収穫後の日持ちが改善した。



高温対策実証

< 今後の取組予定 >

・湿式バケットの使用について今後も検証を行う。今後もパレットの活用や流通コストの低減に向けた検討を行う。
・ホームユース需要については、新たな需要先との出荷取引を行う予定。
・葉焼けについては、タイマー設置等の改善により症状発生を抑制できるかの確認を行うことについて、提案することとする。高温障害回避に向けて、今後も実証を行い安定生産に取り組む。

とくしまの花振興協会（徳島県）

協議会構成団体：全国農業協同組合連合会徳島県本部、徳島市農業協同組合、東とくしま農業協同組合、徳島県農業協同組合、徳島県洋ラン生産組合、徳島県鉢物洋蘭振興会、阿波洋らん青年倶楽部、（株）TKなにわ花いちば、徳島県

対象品目

切り花：シンビジウム、オモト、アリウム・コワニー等



シンビジウム



オモト



アリウム・コワニー

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・徳島県の花き流通は産地、または生産者毎に運送会社が異なり、物流の効率化が課題となっている。そこで、物流の一元的な集出荷施設を構えるJA高知県へ先進地事例調査を行った。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・業務需要が減少しているシンビジウムについて、ホームユース需要に応じた品目等の転換のために、生花店やフラワーデザイナー、関東の生花市場関係者と意見交換をし、需要動向を調査した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・県産花きの販売拡大を図るため、関西市場の展示商談会への参加や、花き展示、ワークショップなどを実施した。
・新たな販売手法の開拓として、農業高校生と一緒に花苗の売り場づくりを行い、学校の収穫祭にて、地域住民へのお披露目と花苗を使ったガーデニングの浸透を図った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・本県で生産されるアリウム・コワニーは2月を中心に出荷されているが、単価の向上を図るために、年内出荷の数量増加について球根に温度処理を加える実証試験を行った。
・近年の高温によりシンビジウムの花芽分化率が低下しており、これを改善するには充実した苗を栽培することが重要であると知られている。充実した苗を栽培するには、LED補光が行われていることから技術普及のためのセミナーを開催した。

< 取組の成果 >

・視察した集出荷施設では、花きのみならず、野菜、果実も1か所に集約され、仕向先ごとにトラックへの混載が行われており、物流の効率化が追求されていた。
・本県でも、花きだけではなく生産物全般の物流施設について、県産品目全般を扱う団体と一緒に検討していく必要性について関係者間で共有した。
・花き単体では、パレット輸送を前提とした出荷規格・箱の作成の推進を図る。



視察の様子

・生花店では、シンビジウムは売りにくい商品（値段が高い、最近の花束トレンドに合わない）との意見をいただいたが、染めたものは「推し活」や「アレンジメント」等に使ってみたいと好評であった。
・関東の生花市場では、継続したシンビジウムの出荷要望が強かった。
・参加した生産者はシンビジウムを中心とした経営や、染めなどの新たな取り組みを継続しつつ、新たな品目（スターチスなど）に挑戦する意欲を示した。



花束のトレンドについての講演

・京都生花「京の花絵巻」に参加し、県産花きと実需者のマッチングを図った。参加後の取扱量の変化について、長期的に観察を行う。
・花き展示やワークショップを実施することで、アンケート回答者のうち、花の購入頻度が「増えた」「これから買いたい」といった声が9割を占めた。
・収穫祭において、花苗は前年比114%の売上高につながったほか、年間実績についても前年比129%の売上げとなった。



花苗の売り場づくり

・温度処理を加えた球根を9月下旬までに定植することで、年内出荷が可能であり、球根約2,000個分の花きを年内出荷することで温度処理に係る電気代をまかなえることが分かった。
・県外講師から紹介のあったLEDの実証試験結果について、本県で生産の多い品種について試験が行われていないことがわかり、次年度の実証課題のひとつとすることができた。



実証区

セミナーの様子

< 今後の取組予定 >

- ・徳島県花き振興計画に「物流」の項目を追加し、パレット輸送や出荷箱の作成の推進を図る
- ・品目転換については、次年度以降、シンビジウムハウスで栽培可能なスターチスの品種選定を行い、流通・販売面など多面的に検討してから、栽培マニュアルを作成する。
- ・ワークショップは継続的に開催し、県産花きのファン獲得に努め、県内生花店にも聞き取りを行い、売上額の向上に取り組む。
- ・シンビジウム生産におけるLED利用について、実証試験を通し本県での知見を深めた上で、生産者への普及を図る。

花の里かがわ推進委員会（香川県）

協議会構成団体：香川大学、香川県花き園芸協会、株式会社高松花市場、香川県花卉商業協同組合、香川県農業協同組合、農林中央金庫高松支店、香川県連合自治会、公益財団法人香川県老人クラブ連合会、一般社団法人香川県婦人団体連絡協議会、香川県生活研究グループ連絡協議会、香川県消費者団体連絡協議会、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会香川県支部、香川県園芸文化協会、JA香川県女性部、香川県商工会連合会、公益社団法人香川県観光協会、香川県華道協会、香川県盆栽生産振興協議会、香川県

対象品目

切り花：
ランタンキュラス、
花き品目全般



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・2024年問題、燃料の高騰等を見据えた花き物流の持続的な確保に向け、花きセミナーや検討会の開催、「かがわ花き流通効率化システム」の検討、県内市場への効率的な出荷体制の検討を行った。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・県産花きの認知度向上・消費拡大を目的に、「全国高校生花いけバトル」の会場において花材やパネルの展示、資料の配布を行った。また、花に興味を持つ高校生を対象に、産地交流会を開催し、生産現場の見学・生産者との意見交換を行った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・ランタンキュラスの県オリジナル品種として新たに普及予定のピンク系複色品種について、現地での栽培特性について調査した。また、令和5年度の現地栽培調査で、塊根の冷蔵処理後に発芽不良が見られたオレンジ色品種について、最適な冷蔵処理温度を検討した。
・近年の高温により、培養苗の生育に悪影響が出ている、ランタンキュラス優良種苗生産供給において、培養期間中の最適管理温度を明らかにするため、3品種を対象に実証を行った。

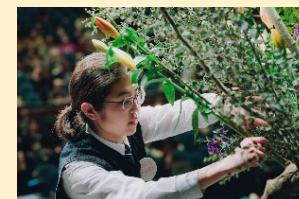
< 取組の成果 >

・QRコードを活用し、生産者と市場・輸送業者との情報伝達の効率化が期待できる「かがわ花き物流効率化システム」は、令和5年度の実証で得られた課題について、改修及び機能を追加することで解決することが出来た。また、輸送実証試験等を通じて、新たに市場連携強化に向け、ラベルの仕様や送り状・仕切り状の結びつき等の課題を洗い出すことが出来た。
・台車を活用した集荷の実証を行った結果、慣行のミルクラン方式より作業時間が約半分となったが、荷物数が極端に少ない場合は差がなかった。



輸送実証試験

・「全国高校生花いけバトル香川大会」では、10校23チームが参加し、90%の出場者が「今回のイベントを通じて、今以上に家や学校に花を飾りたいと思った、あるいは少し思った」と回答。また、「全国高校生花いけバトル全国大会」では、600名が来場し、来場者（回答者261名）の85%が同様の回答をし、出場者・来場者ともに、花きの活用促進につながった。
・産地交流会では県内の高校生と関係者7名が参加し、生産者の想いや苦労、工夫を学び、県産花きへの理解を深めた。



全国高校生花いけバトル

・ピンク系複色品種は、時期により花色が変化し、花色の幅が大きい傾向があった。また1番花を採花後に端境が見られた。
・オレンジ色品種は、慣行の温度処理区と冷蔵温度を変えた区を比較した結果、両区で萌芽率や栽培期間を通した生育に差はなかった。
・培養苗の適正な順化管理温度を調査した結果、その効果は供試品種によって差が大きかったため、どの品種にも対応可能な高温対策の検討が必要である。



現地試験

< 今後の取組予定 >

・「かがわ花き物流効率化システム」について、市場との連携を通じて得られた新たなシステムの課題を改善し、市場連携強化に向けた実証試験を行う。
・高校生花いけバトルや産地交流会の開催・普及啓発活動を通じて、県産花きの認知度向上・消費拡大に取り組む。
・県産花きの安定生産・種苗の安定供給に向けた検討として、高温によるマーガレットの開花遅延の軽減対策の実証等に取り組む。

高知県園芸品販売拡大協議会（高知県）

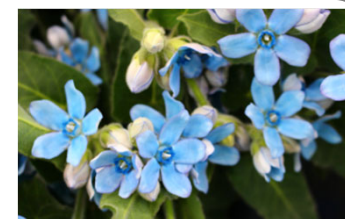
協議会構成団体：高知県、高知県農業協同組合、土佐花き園芸市場

対象品目

切り花：グロリオサ、ユリ、オキシペタラム、トルコギキョウ、ダリア等



グロリオサ



オキシペタラム

< 取組内容 >

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組
 ・花き消費面において花きの活用や花文化の振興を図るため、高校生等の若い世代から社会人を対象に花に親しむ機会となる花育体験（高校生対象の花いけバトル練習会）及びワークショップ（50代以下の社会人対象）を実施した。

時期：6月、7月、9月（練習会とワークショップは同日実施）

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・県産花きの安定生産を図るため、赤色LEDによる物理的防除技術の検討及びハウス内環境データを活用した栽培の改善に取り組んだ。

実証①：オキシペタラムに発生するアザミウマ類に対する物理的防除技術(赤色LED照射)の検討
 実施期間：令和6年8月～令和7年3月

実証②：グロリオサにおけるハウス内環境データを活用した切り花品質の向上と好適な塊茎増殖(肥大)環境の検討
 実施期間：令和6年7月～令和7年3月

< 取組の成果 >

・花いけバトル練習会のはべ21校86名が参加した。参加者へのアンケート調査では、44名が「自宅でも花を飾ってみたい」、40名が「高知の花についてもっと知りたい」と回答し、花に対する興味喚起を図れた。また、練習会実施から数ヶ月後に実施した参加者アンケート（回答者：33名）では、14名が「花を買って自分で花いけの練習をした」、「花を自宅に飾ることが増えた」等と回答し、花に対する購買意欲の向上を図ることができた。

・ワークショップは60名の参加があった。ワークショップ実施から数ヶ月後に実施した参加者アンケート(回答者：27名)では、19名が「ワークショップ実施後、3か月間で花を購入し、花を飾ったり、フラワーアレンジメント作成や花を贈ることがあった」と回答し、消費の増加につながることができた。



花いけバトル練習会

・実証①

調査期間中にハウス内に設置した粘着板に捕殺したアザミウマ類の頭数はハウスサイドで最も少なく150頭、ハウス中央部で最も多く691頭だった。中央部は侵入した個体が増殖したことが要因として考えられるが、野外からの飛び込みが多いハウスサイド部での捕殺頭数が少ないことから、赤色LEDはアザミウマ類のハウス内への侵入抑制効果が高いことが明らかになった。

・実証②

環境測定装置を3戸に設置して調査した結果、定植から採花までの積算温度が約1,200℃であることが明らかになった。また、夏秋期の切り花品質の低下は、かん水不足が原因の1つと考えられ、栽培環境(土質や夏期の高湿)を考慮すると2～3回/日のかん水が必要と考えられた。



赤色LEDによる物理的防除



データを活用した栽培改善

< 今後の取組予定 >

- ・高校生等の若い世代から社会人を対象に花に親しむ機会を創出し、県産花きの需要拡大を図るため、花育体験及びワークショップを実施する。
- ・グロリオサでは、令和6年度の事業で夏秋期のかん水量が不足していることが明らかになったため、令和7年度は、引き続き環境データや土壌水分データを測定するとともに、水量モニターを設置し、かん水の改善を図る。
- ・トルコギキョウにおける中山間地域の夏秋栽培では、化学農薬に頼った防除体系となっているため、赤色LED防虫灯の日中照射により、アザミウマ類の発生抑制効果を検証する。
- ・センリョウでは、栽培において必要な竹すに代わる低コスト資材への転換が急務となっているため、竹すの代替資材として有望な遮光資材を使用し、栽培環境や品質・収量への影響について検証する。